授業科目	栄養疫学					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	藤和　太						
授業概要	栄養疫学は最近注目されている新しい学問である。人間集団の食事習慣と疾病との関連を調査するためには、疫学手法が重要である。食物摂取頻度調査により、ある集団の摂取する各栄養素量や食事パターンなどを推定し、生活習慣病など特定の疾病との関連を検討することが栄養疫学の範囲である。科学的根拠に基づく栄養学が重視さる今日、栄養疫学は特に有用な研究手法である。本科目では、栄養疫学の基本である疫学手法、研究方法を学習し、実際に行われた栄養疫学研究を例に EBN を解説する。						
授業形態	講義			授業方法	スライドによる説明とプリント配布（Classroom を利用）。毎回授業後小テストを行い、ディスカッションによって理解度を測る。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．　科学的根拠に基づく栄養学とは何かを理解できる。（DP1-2） 2．　栄養疫学統計基本手法の応用と計算ができる。（DP2-1） 3．　食物頻度調査票の作成法および疫学手法を理解し、簡単な調査票を作成できる。（DP3-1） 4．　簡単な調査票データのまとめ、分析方法について理解し、実践できる。（DP4-1）
理想的レベル	標準レベルに加え、 栄養疫学研究の全体像を理解し、関連論文を読めるようになる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	70%	
小テスト	30%	
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NT11102J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
次の授業内容について教科書を読む。授業で示された図書や文献などを調べ、疑問点などをまとめる。	4

授業計画	
第 1 回	栄養疫学基本概念、EBM と EBN とは何か
第 2 回	栄養、健康情報と EBN
第 3 回	疫学入門(1) 疫学の定義、種類、交絡因子
第 4 回	疫学入門(2)

	コホート研究、相対危険、寄与危険の計算
第 5 回	疫学入門（３） 症例対照研究、オッズ比の計算
第 6 回	疫学入門（４） 介入研究、平均への回帰
第 7 回	疫学統計入門(1) 分布、標準偏差、信頼区間、t 検定
第 8 回	疫学統計入門（２） 分散分析、相関分析、カイ 2 乗検定
第 9 回	栄養疫学入門（１） 食事摂取の変動要因と食事調査
第 10 回	栄養疫学入門（２） 食物摂取頻度調査法、妥当性と再現性
第 11 回	栄養疫学研究の紹介 論文の読み方と研究の進め方
第 12 回	生活習慣病の EBN（１） 高血圧、脂質異常症、循環器疾患と栄養
第 13 回	生活習慣病の EBN（２） がん、糖尿病、骨粗鬆症、肥満と食行動
第 14 回	食事摂取基準と栄養疫学 推定平均必要量、推奨量、目標量、耐容上限量
第 15 回	まとめ 総合演習を行う。
テキスト	「わかりやすい EBN と栄養疫学」（同文書院）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「はじめて学ぶやさしい疫学」（南江堂） 「栄養疫学」（南江堂） 「日本人の食事摂取基準」2020 年版
課題に対するフィードバックの方法	小テストの内容は授業中で指示する。 小テストは次の授業で質疑応答してから解説する。
学生へのメッセージ・コメント	１．本授業では、教科書に沿った内容を学生自分で読み、与えられた課題のまとめをする訓練がある。 ２．疫学手法や統計手法について手を動かして計算する場合がある。 ３．グループ分けて、関連栄養疫学論文を読み、討論することがある。 ４．最新の栄養疫学論文を読み、栄養と生活習慣病との関連を疫学統計の観点から説明できるよう努力する。